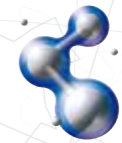


# MONODZUKURI



モノづくり日本会議  
—モノづくり推進会議 NextStage—



モノづくり日本会議  
—モノづくり推進会議 NextStage—

# 01

## 事業コンセプト

モノづくり日本会議は、モノづくり推進会議での活動を土台に、ネクストステージとして広域企業ネットワークや多彩な他機関との連携を活用しわが国モノづくり産業の強化に役立つ実践的な活動を展開していきます。

### 「モノづくり推進会議」

「ものづくり国家戦略ビジョン」に則ったモノづくりパラダイムシフトの転換／価値創造に向けた、モノづくり風土、文化の醸成。人口・環境・資源など制約への対応。

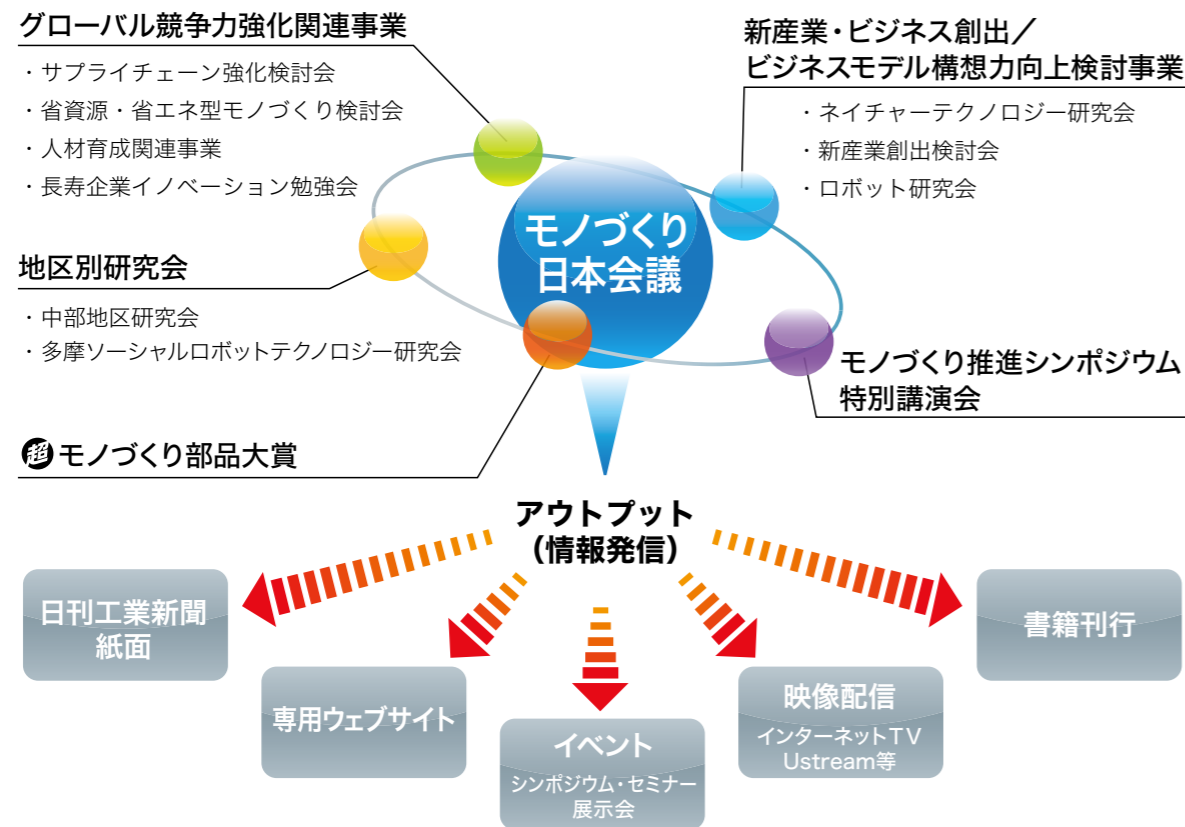
### 「モノづくり日本会議」

モノづくり企業の英知を結集し、将来にわたり発展できる盤石な産業基盤を築き上げる。広域企業ネットワークが触媒となり、人口・環境・資源の制約を乗り越え、「超モノづくり」を推進するかつてない化学反応を起こす。

# 02

## 事業計画

《今後4期の活動計画（2011年10月～2015年9月）》



双方向の情報交流できる企業ネットワークを構築し、企業間、地域間、産業間の新たな連携を促進します。そのネットワークが触媒となり、新産業・新ビジネスを創出できる体制を目指します。

モノづくり日本会議の活動は、勉強会やシンポジウムなどの事業で得られた知見などを取りまとめ、政府への提言なども進めていきます。

## モノづくり推進会議

目的 わが国がモノづくり立国であることを国民の共通認識とし MONODZUKURI 文化の醸成を図る

### 4年の事業を通じて得た課題

#### 【モノづくり人材育成】

- ・中小企業と学生のミスマッチ
- ・最適なマッチングを橋渡しする仕組みづくりやコーディネーターの育成
- ・国と教育機関、地域企業の連携

#### 【企業ネットワーク】

- ・大手企業中心に構築してきた縦のつながりだけではなく業界・業種を越えた広域企業ネットワークが必要
- ・上記を担うコーディネーター・キーパーソンの育成と複合的な活用
- ・産学官・省庁間連携のさらなる強化

#### 【新産業・ビジネス創出】

- ・サプライチェーンの再強化と高度化
- ・モノに付随したサービス・コンテンツなどソフトウェアを含めたトータルパッケージのビジネス展開が必要
- ・わが国がアドバンテージを有する「ロボット」「スマートコミュニティ」の普及・促進
- ・環境制約の危機が顕在化する2030年を見据えたライフスタイルの変革に対応する社会システム構築

### 現在わが国(モノづくり社会)が直面している課題

- ・国内モノづくり産業の空洞化
- ・国内消費市場の減少
- ・労働人口の減少
- ・東日本大震災の復興対応
- ・環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)への対応
- ・為替問題(円高)
- ・中小企業の人材確保(若者の“モノづくり離れ”)

### 4年の事業を通じて得たネットワーク

(後援名義除く)

経済産業省(各経済産業局)／文部科学省／日本商工会議所／内閣府／中小企業庁／中小企業基盤整備機構／日本航空宇宙学会／キッズデザイン協議会／日本IE協会／相模原・町田大学地域コンソーシアム／さみはら産業創造センター／横浜アートプロジェクト／墨田区観光協会／神奈川県経営者協会／三重県産業支援センター／室蘭地域産学官連携事業実行委員会／ロボットラボラトリー／茨城県圏央道沿線地域産業・文化活性化協議会／神戸RTビジネスプラットフォーム／ロボットビジネス推進協議会／オラクルひと・しくみ研究所／北網北見文化センター／人間生活工学研究センター／機械産業記念事業団／東京大学や東北大学大学院、九州大学、早稲田大学、北見工業大学など多数の大学／国立高専機構 など

## モノづくり日本会議

### 「グローバル競争力強化関連事業」

- サプライチェーン強化検討会
- 省資源・省エネ型モノづくり検討会
- 人材育成関連事業
- 長寿企業イノベーション勉強会

### 「新産業・ビジネス創出／ビジネスモデル構想力向上検討事業」

- ネイチャーテクノロジー研究会
- 新産業創出検討会
- ロボット研究会
- エネルギー問題
- 農商工連携勉強会
- サービスロボット検討会
- 自動化検討会

検討会・勉強会

交流会・マッチング

成果普及

#### 目標

1. グローバル競争力強化に向けた具体的方策を検討し、その成果を会員と共有します。また、課題を抽出したうえで、その解決策の政策への反映を目指します。
2. 新産業・新ビジネス創出の検討を行い、成果を会員に提供します。さらに、モデルケースの立ち上げを目指します。
3. 双方向で情報交流できる企業ネットワークを構築し、企業間、地域間、産業間の新たな連携を促進します。企業間の連携を促進し、具体的なビジネスが生まれてくる体制を目指します。

# 03 事業活動内容

モノづくり日本会議は、研究会やシンポジウム、顕彰事業など過去4年間の活動実績と会員企業の要望などを踏まえ、モノづくり推進会議のネクストステージとして、活動内容を刷新します。

東日本大震災からの復興はもちろん、少子高齢化、環境対応、資源・エネルギー問題など様々な課題を乗り越え、「モノづくりの推進」をテーマに事業内容を充実強化していきます。

## ■ グローバル競争力強化関連事業

### サプライチェーン強化検討会

日本のモノづくりの強さの根源であるサプライチェーンをテーマに、モノづくり産業がグローバル競争で勝ち抜けるサプライチェーンのあり方を検討していきます。また、東日本大震災によりモノづくりに何が起きたのか、なぜ早急な復旧を果たすことができたのかを分析し、サプライチェーンの今後の一層の高度化につなげていきます。

#### □ 検討会事業

本検討会は、財団法人 製造科学技術センターや東京大学など大学や研究機関などの外部機関と連携し、有識者や企業の実務家を交えた検討会です。日刊工業新聞社の取材網も活用し、実例を深く検証しながら、課題を抽出し規制緩和などを含めた基盤強化策などを深耕し、広く情報発信していきます。サプライチェーンの川上から川下においてその価値を高めていくための勉強会なども実施します。

#### □ 交流会・マッチング事業

優れた技術を持つ中小企業をより強くし、サプライチェーンの基盤強化につなげるために、大企業、中小企業を交え、業種や地域の垣根を越えた交流の場を設定し、ビジネス創出など具体的な成果をあげていきます。産業分野の垣根を越えた連携を促すためには、企業と企業、地域と地域を結びつけるネットワークが必要です。企業の弱みを補完し強みを相乗する最適なマッチングを行うコーディネート能力が求められます。日刊工業新聞社の取材網やモノづくり企業のネットワークを最大限活用し、さらに地域活性化を担う“キーパーソン”<sup>(※)</sup>などの有識者、自治体、地域の産業団体などとの連携を密にして新産業の創出、ビジネスチャンスの拡大につなげていきます。

※「キーパーソン」とは

中小企業支援や産業振興など地域活性化の専門家や有識者を経済産業省が「キーパーソン」として認定。地域に根差して同様の活動を実践する「地域キーパーソン」なども含めて全国規模でネットワーク化しています。キーパーソンは定期的に有志による会合を開いているほか、「中小企業の広域ネットワーク化」「街おこし」「観光振興」「伝統産業の活性化」「地域商品開発」など様々な分野で個別連携も進めています。

### 省資源・省エネ型モノづくり検討会

少資源国家であるわが国にとって「省資源・省エネ」は重要なモノづくりのテーマです。環境、資源・エネルギー問題への対応が世界的な潮流となるなか、わが国の製品、さらにはモノづくりがより一層注目を浴びることは間違いなく、その発展が国際競争力の強化にもつながっていきます。

そこで、省エネ、省資源化を推進しながら付加価値の高い製品を開発する技術を模索し、会員企業と情報を共有、さらなる高みを目指して議論していきます。

### 人材育成関連事業

グローバル競争に打ち勝つモノづくり企業を担う人材育成に貢献するため、企業内での人材育成のあり方を追求していくとともに、学生向けの情報発信体制を強化していきます。

景気低迷の影響により深刻な就職難が続き、特に中小企業と学生間の雇用のミスマッチが大きな問題となっているため、中小企業と学生のマッチング事業の拡充を進めます。

また、東北地方、特に東日本大震災の被災地域の大学、企業と連携し工場見学会を開催するなど、学生が地域でモノづくり現場に触れる機会を創出していきます。

事業実施に際しては、先進的な技術やノウハウを有する会員企業をはじめ、多彩な機関のご協力をいただき、モノづくり産業がさらに発展していけるよう、事業を展開していきます。さらに、わが国のモノづくり産業の競争力強化につながるよう、地域間・企業間連携をおこない、ビジネスマッチングなども図っていきます。

2つの事業を中心に、モノづくりの課題を抽出し、個別テーマごとに議論を深め、課題解決を図っていきます。

### 長寿企業イノベーション勉強会

危機を過去何度も乗り越えてきた長寿企業の軌跡や技術革新のあり方などを分析し、モノづくり企業の経営手法などのヒントになるような情報を収集、発信していきます。長寿企業は世界に誇るべき優れた経営モデルであり、海外への情報発信なども含め、その企業価値の向上に努めます。

## ■ 新産業・ビジネス創出／ビジネスモデル構想力向上検討事業

### ネイチャーテクノロジー研究会

東北大学大学院の石田秀輝教授のコーディネートのもと、地球環境への負荷を低減するため、自然や動植物の有する機能から必要なテクノロジーを抽出し、新しいモノづくりやライフスタイルを具体的な事例やアプローチを交えて検討していきます。

ネイチャーテクノロジーの実用化や新しいライフスタイルの提案などに取り組み、より具体的なビジネス創出につながる活動を展開していきます。

### 新産業創出検討会

#### □ エネルギー問題

新エネルギーやスマートコミュニティ、事業継続計画（BCP）などをテーマに勉強会やセミナー、討論会、シンポジウムなどを開催します。企業や自治体、産業団体、研究機関などのネットワークを活用し、わが国の産業界が対応しなければならないエネルギー問題を検討するとともに、ビジネス創出の可能性を探ります。

スマートコミュニティなどの分野では、スマートグリッド（次世代電力網）などエネルギーを有効活用できる製品・技術が注目されています。太陽光や風力、地熱発電など自然エネルギーの有効活用など、スマートコミュニティを構成する要素は多岐に渡り、実証事業も活発に行われるなか、産業のすそ野を広げ、ビジネスの層を厚くしていくことがその普及を促進すると考え、当事業では従来以上に企業への情報発信を強化し、ビジネス創出を検討する場を提供していきます。

#### □ 農商工連携勉強会

農林水産業との連携の実状を情報共有しながら、一次産業者の声を集め、モノづくり企業が交流し、連携を模索できるような場を設定、運営していきます。農商工連携に限らず、医工連携など既存産業の融合によって新たな産業・ビジネスを創出していく動きをさらに活発化していきます。

### ロボット研究会

#### □ サービスロボット検討会

「安全規格」「サービス創出」「法整備」「防犯・防災」といった個別議論をより深化していく一方、「ロボットテクノロジーを活用した新たな社会システム」を大きなテーマに掲げ、事例検証会やセミナーなどの活動を展開していきます。全国の自治体やロボット産業界とも協働し、ロボットテクノロジーの発展とサービスロボット産業界の創出を目的とした企業間・地域間ネットワークを構築していきます。

#### □ 自動化検討会

産業用ロボットの果たす役割は、生産自動化によるコスト、納期、品質面での競争力の向上だけではなく、わが国のモノづくりの高度化と国際競争力の維持にも大きく寄与します。国内企業は徹底した生産効率化による円高対応を進めるとともに、コスト対応や大量生産の分野で攻勢をかける新興国とモノづくりのすみ分けも戦略的に展開していかなければなりません。産業用ロボットの活用は国内産業の空洞化に歯止めをかけながら、わが国が今後もアドバンテージを維持していかなければならない最先端分野の研究開発といった分野に優れた人材を効果的に投入できるなど、国内のモノづくりの高度化につながります。現在メーカーは産業機械の一層のロボット化にも取り組んでおり、工場の自動化を実現するこれらに各種システムは付加価値の高いモノづくりを実現する上での切り札になります。

このため、ロボットテクノロジーや情報システム、搬送や検査など各工程の装置などの進化について、大学や研究機関、ロボットメーカーやIT企業、あるいはユーザー企業などの実務者を交えた勉強会を開催します。併せて、設備とともにいかに人をこれまで以上に活用できるか、といった観点からも議論を深めていきます。

## ■ その他の事業コンテンツ

### 超モノづくり 部品大賞

部品や部材産業は、わが国モノづくり産業の国際競争力の源泉でありながら、光の当たりにくい「縁の下の力持ち」的な存在です。このような部品や部材に焦点を当て、優れた部品や部材を顕彰することで、モノづくり産業のさらなる強化を図るのが本顕彰事業の目的です。

「超モノづくり部品大賞」、「モノづくり日本会議 共同議長賞」、「ものづくり生命文明機構 理事長賞」を受賞した部品については、開発の狙いや技術のブレイクスルーなどに焦点を当てた映像を制作します。開発者の部品への思いや苦労話など開発にまつわる物語を「見える化」することで、一般にはなじみのない部品を理解しやすくし、贈賞式での上映やHPでの配信を行います。

### モノづくり 推進シンポジウム 特別講演会

「モノづくり推進シンポジウム」及び「特別講演会」など、シンポジウム・講演会事業を集約し、規模を拡大し実施していきます。また、インターネットテレビ「Ustream」を活用し、ニースの高いコンテンツを配信、シンポジウムや講演会に参加できない会員企業の皆様にも閲覧できるようにします。

本会議での活動を総括する「モノづくり推進シンポジウム」では、共同議長や有識者に登壇していただき、グローバル化社会の中で少子高齢化に対応した人材育成や環境対応、資源・エネルギー問題など、モノづくり産業が抱える課題解決に向けたテーマで開催します。

特別講演会は、モノづくり推進会議で培ってきた連携のネットワークを活用し、時宜にかなったテーマで全国各地で開催します。実施に際しては、会員企業や有識者の協力をいただき、参加者がともにイノベーションを目指す内容とします。

### 地区別研究会 「中部地区研究会」 「多摩ソーシャルロボット テクノロジー研究会」

本会議の地域での活動を活発化させ、地域の会員が参加しやすい場所で開催するのが、本研究会の目的です。

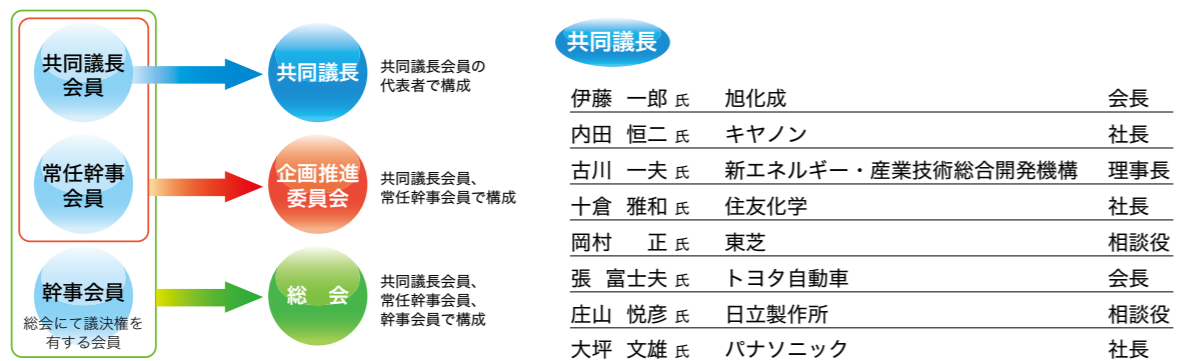
現在、中部地区研究会（名古屋地域）と多摩ソーシャルロボットテクノロジー研究会（多摩地域）で地区別研究会を立ち上げ、時宜にかなったテーマで研究会を実施してきました。

「中部地区研究会」は、感性価値を活用したモノづくりやマーケティング手法などについての討論会や勉強会を開催します。

「多摩ソーシャルロボットテクノロジー研究会」は、地方公共団体や企業、研究機関などが参画し、地域全体で安心・安全につながるような町づくりにロボットテクノロジーをどのように生かしていくのかというコンセプトで事業を展開します。

モノづくり日本会議の組織は、モノづくり推進会議の組織を一部改編し、運営していきます。なお、事務局は日刊工業新聞社内に設置します。

## 04 組織（組織体制）



モノづくり日本会議は、共同議長制をとります。共同議長は、民間の立場から本会議の活動を先導し牽引していただく存在です。

企画推進委員会は、共同議長会員、常任幹事会員から選出された企画推進委員及び事務局で構成します。本会議が実施する事業の意思決定機関で、事務局提案を受け、具体的な活動事業を検討、決定します。

事務局は日刊工業新聞社内に設置し、本会議の実施運営、会員企業との連絡・調整、実施全事業の実務運営・管理部分を受け持ちます。

## 会員企業一覧

共同議長会員	幹事会員	一般会員
旭化成	アイシン精機	アイコクアルファ
キヤノン	アイダエンジニアリング	イグス
新エネルギー・産業技術総合開発機構	愛知製鋼	オーエムヒーター
住友化学	アルゴグラフィックス	岡村製作所
東芝	アンリツ	オネストン
トヨタ自動車	伊藤忠商事	金子産業
パナソニック	岩谷産業	加茂精工
日立製作所	エイチアンドエフ	キタムラ機械
	NTN	岐阜プラスチック工業
	オーエスジー	京西テクノス
	花王	小原歯車工業
	兼房	坂口電熱
	麒麟ビール	住田光学ガラス
	サントリーホールディングス	積水インテグレートドリサーチ
	ジェイテクト	セスクワ
	昭和リース	太平洋工業
	スギノマシン	中遠熱処理技研
	スリーボンド	中興化成工業
	積水ハウス	ディ・エフ・エフ
	ソニー	TEKNIA
	大同特殊鋼	東海合金工業
	大日本印刷	ナガセインテグレックス
	ダイヘン	中日本炉工業
	大洋技研工業	西島
	椿本チエイン	日特エンジニアリング
	THK	日本エンジニアリングアウトソーシング協会
	デンソー	日本街路灯製造
	東海理化	日本伸管
	豊田合成	野火止製作所
	豊田自動織機	ハイオス
	豊田通商	原精密ダイス
	トヨタ紡織	日立ニコトランスミッション
	トルンプ	双葉電子工業
	日本トムソン	ホーチキ
	日本アイ・ピー・エム	北陸銀行
	日立金属	前川製作所
	日立ツール	マスダック
	平田機工	山田ドビージャパン
	富士精工	ユニゾーン
	文化シャッター	
	三井化学	
	山武	
	ヤマハ発動機	
	りそな銀行	